

船穂神社の秋祭り

船穂神社の秋祭りの補導に参加した。補導とは言うがこの祭りで補導しなければならないような行動を船穂の子はとらない。

出会った子どもたちや保護者の方、地域の方と「こんばんは」とあいさつを交わしながら参道を上るのが昔から好きだった。夜店がほの明るい光で照らされ、皆が笑顔でお参りする様子が秋祭りのお手本のように思え大変気に入っている。今年も、先生方と夕方6時に学校に集合し連れだって出かけた。あいにく小雨が混じる中だったが、例年通りの賑わいだった。参道わきのたい焼きやさんで、家内のみやげを買った。5個買った。一個100円は安いなと思った。参道を上ると親師会の会長さんをはじめ役員の方も補導に来てくださって合流した。真剣な眼差しで金魚すくいをする子、好みのクレープを注文して待っている子、大きな地鶏をほおぼっている子、皆楽しそうで見ているこちらまでうれしくなる。

社殿の周りを二周して子どもたちに声をかけた後、親師会の人たちと話をしていると強面の若い人が「先生、覚えとる？」と話しかけてきた。手には缶ビールを持っている。すこしばかり緊張して思いだそうとしたが案に浮かばない。「わからん。誰？」と聞くと名字を名乗った。子どもの保護者だと思って「たかしか？」と言うと「それは兄貴じゃ。」と言う。面影をたぐりよせ、「ひろしか？」と聞くと「先生、おぼえてくれとったんじゃな？」と笑顔を見せた。思いがけない教え子との再会に胸が熱くなり、抱き抱えて「久しぶりじゃのお。よう声を掛けてくれた。」と言った。そして、ひろし君と一緒にいた連れを「よしおじゃ。」と紹介した。二人は25年ほど前に3年生で担任した。「先生、サニトラとレガシー乗っとるじゃろ。よう会うんで。」とよしお君が言う。しばらく話をし、「今度、船穂小学校に遊びにおいで。」と言って別れた。

最後に担任した子どもたちで思い出も強く、祭りという最高の場での再会でもあり、本当にうれしかった。この出会いは一生の宝ものになるなと思った。みやげに買ったたい焼きを温めて家内と食べた。あんこがいっぱい入っていておいしかったが、教え子に会えたことで甘さが増しているのかなとも思った。



※ たかし君、ひろし君、よしお君は仮の名です。